

日本思想史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史特論Ⅰ	日本中世の思想・宗教・文化	2	原 克昭	前期集中 その他 連講	日本思想史特論Ⅰ
日本思想史特論Ⅱ	若さと老いの日本思想史	2	引野 亨輔	後期 月曜日 4 講時	日本思想史特論Ⅱ
日本比較思想史特論Ⅰ	「民族 (Ethnicity)」と比較思想史	2	片岡 龍	後期 火曜日 3 講時	日本思想史特論Ⅲ
日本文化思想史特論Ⅰ	「地域」と文化思想史	2	片岡 龍	前期 月曜日 3 講時	日本思想史特論Ⅴ
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔 片岡 龍	前期 水曜日 4 講時	日本思想史研究演習Ⅰ
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔 片岡 龍	後期 水曜日 4 講時	日本思想史研究演習Ⅱ
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔 片岡 龍	前期 水曜日 5 講時	日本思想史研究演習Ⅲ
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔 片岡 龍	後期 水曜日 5 講時	日本思想史研究演習Ⅳ

科目名：日本思想史特論Ⅰ / History of Japanese Thought (Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：原 克昭

コード：LM98802 科目ナンバリング：LJS-PHI601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論Ⅰ】

1. 授業題目：日本中世の思想・宗教・文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese Thought, Religion, Culture in the Medieval Ages
3. 授業の目的と概要：中世という時代層を基調として、日本の思想・宗教・文化に関する特論テーマを設定し、その諸相と展開を探究するとともに、ひろく前近代／近現代をめぐる時代的位相差をさぐりあててゆきたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Based on the Medieval Ages, take up various themes related to Japanese Thought, Religion, Culture, explore their aspects and developments, and examine the historical phase differences surrounding Pre-Modern / Modern Times.
5. 学習の到達目標：日本中世の思想・宗教・文化に対する理解を広げるとともに、諸テーマに関する文献資料の読解力の発展と時代ごとの位相差を見極める学術的視座の獲得をめざす。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Expand understanding of Japanese Thought, Religion, Culture, and aim to improve reading comprehension and acquire an academic perspective that the historical phase differences of each times.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：開講ガイダンスー日本中世思想史の射程
 - 第2回：スタートアップー思想史的基盤の確認
 - 第3回：信仰の思想史（1）ー平安時代の日常と占術学
 - 第4回：信仰の思想史（2）ー戦国時代の生命と術数学
 - 第5回：宗教の思想史（1）ー日本化した仏教的世界観
 - 第6回：宗教の思想史（2）ー異界・怨霊・魔道の世界
 - 第7回：宗教の思想史（3）ー神仏習合の理論と実践
 - 第8回：宗教の思想史（4）ー神仏習合の図像学
 - 第9回：文化の思想史（1）ー未来記の思想と構造
 - 第10回：文化の思想史（2）ー未来記解読
 - 第11回：文化の思想史（3）ー夢の位相
 - 第12回：文化の思想史（4）ー夢の叙述
 - 第13回：論争の思想史（1）ー宗派間の論義
 - 第14回：論争の思想史（2）ー異宗教との邂逅
 - 第15回：総括ー日本中世思想史の可能性
8. 成績評価方法：

最終レポート [50%]・平常点（受講シート）[50%]
9. 教科書および参考書：

教科書：各講ごとに授業プリント・受講シートを配布する。
参考書：くわしくは各テーマごとに紹介する。

 - ・『日本思想史事典』（丸善出版、2020年）
 - ・末木文美士『日本思想史』（岩波新書、2020年）
 - ・末木文美士『日本思想史の射程』（敬文舎、2017年）
 - ・苅部直『日本思想史への道案内』（NTT出版、2017年）
10. 授業時間外学習：授業プリントを活用した「受講シート」作成（理解の定着・思考の深化）
参考文献を活用した「最終レポート」作成（研究方策の修得・論理的文章化）
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM21401 科目ナンバリング：LJS-PHI602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論Ⅱ】

1. 授業題目：若さと老いの日本思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought about Youth and Old Age

3. 授業の目的と概要：我々は、若者といえば短気な存在であると捉えたり、老人といえば頑固な存在であると捉えたり、若さや老いに固定的な印象を抱きがちである。しかし、そのような捉え方は、時代や地域を超越して不変的なものではない。そこで、本授業では、受講生たちに江戸時代に記された若さや老いに関する諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する物の見方への理解を深めてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We tend to have a fixed impression of youth and old age, such as thinking that young people are impatient and old people are stubborn. However, such thinking is not immutable over time and region. In this course, students will read some writings about youth and old age written in the Edo period, and deepen their understanding of the perspectives of things that change with the times and regions.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に記された諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to acquire a flexible method of ideological analysis that is not bound by stereotypes through reading comprehension of various documents written in the Edo period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から学ぶ①—太田素子『子宝と子返し』—

第3回：『小児必用養育草』を読む①—慈幼の誕生—

第4回：『小児必用養育草』を読む②—出産とケガレ—

第5回：『小児必用養育草』を読む③—生育儀礼の諸相—

第6回：『小児必用養育草』を読む④—幼児と病—

第7回：『小児必用養育草』を読む⑤—幼児と学び—

第8回：先行研究から学ぶ②—新村拓『老いと看取りの社会史』—

第9回：『老人必用養草』を読む①—孝行の論理—

第10回：『老人必用養草』を読む②—老人の年齢—

第11回：『老人必用養草』を読む③—養生のすすめ—

第12回：『老人必用養草』を読む④—老人と肉食—

第13回：『老人必用養草』を読む⑤—老人と病—

第14回：先行研究から学ぶ③—フィリップ・アリエス『〈子供〉の誕生』—

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、平常授業への参加度 30%、小レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

参考書：『子宝と子返し』（太田素子、藤原書店）、『老いと看取りの社会史』（新村拓、法政大学出版局）、『〈子供〉の誕生』（フィリップ・アリエス、みすず書房）

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前に読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本比較思想史特論 I / Comparative history of Japanese thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM22301 科目ナンバリング：LJS-PHI603J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論Ⅲ】

1. 授業題目：「民族 (Ethnicity)」と比較思想史
2. Course Title (授業題目)：“Ethnicity” and history of comparative thought
3. 授業の目的と概要：日本思想史を「民族」の観点から再考することを目的とし、テキスト (A：ヨーゼフ・クライナー編『日本とはなにか ー日本民族学の二〇世紀』、B：同編『日本民族の戦前と戦後 ー岡正雄と日本民族学の草分け』) を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of “Ethnicity”, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.
5. 学習の到達目標：「民族 (Ethnicity)」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to share the problem of “Ethnicity”, and to develop the ability to set a research topics across specialties.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表は研究計画の作成を主眼とする。

第1回：ガイダンス
第2回：民族とネイションについて
第3回：A 鳥居龍三①
第4回：A 鳥居龍三②
第5回：A 澁澤敬三
第6回：B 岡正雄①
第7回：B 岡正雄②
第8回：B 岡正雄③
第9回：A 梅棹忠夫①
第10回：A 梅棹忠夫②
第11回：A 金関丈夫
第12回：A 佐々木高明
第13回：B 外国からみた日本民族学と岡正雄①
第14回：B 外国からみた日本民族学と岡正雄②
第15回：B 日本民俗学、そして沖縄のアイデンティティー
定期試験：なし
8. 成績評価方法：
平常点 70% (出席 30%、発表・討論 40%)、レポート 30%
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布します。
10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文化思想史特論 I / History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301 科目ナンバリング：LJS-PHI604J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論 V】

1. 授業題目：「地域」と文化思想史
2. Course Title (授業題目)：“Region” and history of cultural thought
3. 授業の目的と概要：日本思想史を「地域」の観点から再考することを目的とし、テキスト（実学資料研究会編『実学史研究』I～XIからセレクト）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of “Region”, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.
5. 学習の到達目標：「地域」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to share the problem of “Region”, and to develop the ability to set a research topics across specialties.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表はテキスト批評を主眼とする。

第1回：ガイダンス
第2回：「地域」とはなにか
第3回：地域個性と実学（末中哲夫）
第4回：近世本草学と国産薬種（宗田一）
第5回：読書室物産会について（遠藤正治）
第6回：中国庶民資料ジャンルについての覚書（斯波義信）
第7回：「南部盲暦」について（岡田芳朗）
第8回：十八・十九世紀のヨーロッパ社会の構造と医療（石田純郎）
第9回：生活思想としての実学（藤原暹）
第10回：学としての朝鮮実学の形成について（イム・ジョンヒョク）
第11回：デューイ思想移入の初期（埜上衛）
第12回：信濃蘭学の展開状況（青木歳幸）
第13回：三河山間部の初期古義堂門人について（田崎哲郎）
第14回：幕末期蝦夷鉦山の開発調査におけるお雇い技術者たち（本田敏雄）
第15回：天保期の加賀藩における「実学」と経世済民（八木清治）
※第3～15回のテキストは『実学史研究』I～XIからの例示
定期試験：なし
8. 成績評価方法：
平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布します。
10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史総合演習 I / History of Japanese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍

コード：LM13401 科目ナンバリング：LJS-PHI605J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習 I】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍

コード：LM23401 科目ナンバリング：LJS-PHI606J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ペリカン社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史研究演習 I / History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍

コード：LM13501 科目ナンバリング：LJS-PHI607J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習 III】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I
3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.
5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、研究発表 1
 - 3、研究発表 2
 - 4、研究発表 3
 - 5、研究発表 4
 - 6、研究発表 5
 - 7、研究発表 6
 - 8、研究発表 7
 - 9、研究発表 8
 - 10、研究発表 9
 - 11、研究発表 10
 - 12、研究発表 11
 - 13、研究発表 12
 - 14、研究発表 13
 - 15、研究発表 14
8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』
『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍

コード：LM23501 科目ナンバリング：LJS-PHI608J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2
3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)
5. 学習の到達目標：研究論文の作成
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、研究発表1
 - 3、研究発表2
 - 4、研究発表3
 - 5、研究発表4
 - 6、研究発表5
 - 7、研究発表6
 - 8、研究発表7
 - 9、研究発表8
 - 10、研究発表9
 - 11、研究発表10
 - 12、研究発表11
 - 13、研究発表12
 - 14、研究発表13
 - 15、研究発表14
8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』
『日本思想史辞典』(ペリカン社) ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし